

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2383号 2017年11月13日（月曜日）

《 oil prices keep high level 》

今週のマーケットは、高値を追っていた世界の株式市場が先週一週間でやや不安定になる中での幕開けです。株価を語るときに、「マーケットを取り巻く環境は変わっていない」と良く言われるが、その間にも株価は水準を変え、株価が上がる（下がる）に従って市場に参加している投資家達の心模様は微妙に変わっているのであって、「環境が変わらないから株価のトレンドが変わらない」と考えるのは間違っている。「環境」とは今では世界的な景気堅調とか、長期金利の低迷持続など。

マーケットにはマーケットに特有の心理状態と、独特の論理・内部要因がある。それを忘れてはならないが、先週のニューヨーク株、東京市場の株価の一股気味に対しても、当然ながら「絶好の買い場」との見方もあれば、そろそろ高値波乱なのでポジションを軽くした方が良いとの見方も出ている。今週のマーケットはこの相対立した心理がどちらにより強く動く兆しを見せるかが週としてのポイントだ。

筆者が引き続き気にしているのは、サウジ国内の政変劇と同国の対イランでの強硬姿勢の行方、そしてそれを受けてバレル当たり60ドル前後（ブレント原油）で推移している原油相場だ。先週ブレント原油は高値でバレル64ドル65セントがあった。これは一時の安値と比べると5割ほど高い水準で、この原油相場の今後の動きも一つの焦点だと思う。

サウジ国内では一部王族排撃に関する目立った（海外に伝わるような）反対運動は起きていない。ムハンマド皇太子の側が周到に準備していた兆しもある。先週も述べたとおり「脱石油」の改革があまりうまくは進まず、「女性に対する権利付与」（運転する権利など）で国民の支持を集めようとしているが、これは保守派の反発を将来招く可能性があるが、今注目されるのは同国の対外関係だ。

基本的には対イランへの強硬姿勢。先週は複雑な国内対立関係を抱えるレバノンのスンニ派首相であるハリリ氏が突然サウジ訪問中に辞任を発表。世界を驚かせた。しかしこの発表もサウジが強いたものではないかとの見方もあり、事態は混沌としている。中東情勢に波乱の種はつきない。

サウジの主なターゲットはレバノンを含めて各地のシーア派を動かしていると見られるイランで、サウジはイランが核戦力を含めて軍事力も使って中東の派遣を握ろうとしていると警戒感を強める。サウジには財力はあるが、とにかく人口が少ない。多少水増しして3000万を超えたくらいとされる。対してイランは8000万人を超える。中東ではトルコと並

ぶ大国家だ。

原油相場がブレント原油価格で 60 ドル前後に高止まっているのは、アメリカのシェール・オイル産業の存在を考えれば、「相当に今後を懸念した価格水準」とも言える。バレル 60 ドルになればアメリカのシェール・オイル産業の採算は大部分の油田でとれ、生産量が増えると予想されるからだ。原油が高止まりすれば、世界の金利水準も修正を余儀なくされる局面もある。金利水準の変更は、為替相場に影響を与える。

今週もサウジ、イランを中心とする中東の動きには目が離せない。

《 crisis in trade talks 》

先週明らかになったのは国際的貿易協定締結の難しさだ。TPP は大筋合意を確認はしたものの、再調整部分を残したため首脳会合を開けずに 11 日に記者会見を開いて大筋合意の身を説明するだけにとどめた。今回はアメリカとの FTA 再交渉を控えたカナダが、アメリカとの交渉材料を残す目的からも TPP11 の合意を遅らせようと動いたとされる。もともと今のトルドー首相は TPP を推し進めた前任者に対抗して立候補し、そして首相に選ばれた人物。暫くカナダは慎重な姿勢を続けるだろう。もっともカナダが本当に TPP に慎重になっているセクターの数は少ないとも言われる。

一方で TPP と競うように進められている東アジア地域包括的経済連携 (RCEP) 交渉も順調ではない。RCEP に参加する 16 カ国は先週、2017 年内としてきた合意目標を 18 年以降に先送りする方針を固めた模様だ。日本など先進国と、中国など依然として保護セクターを抱えている国で関税を撤廃する品目の割合を示す自由化率などで溝が埋まらなかったためだとされる。

米国を除く 11 カ国で進める TPP もある意味で問題と課題を残し、そして RCEP も合意先送りで、改めて自由貿易推進の枠組みを作るための交渉には全体として停滞懸念が生じている。これは考えてみれば当然とも言える。各国にも自由貿易でメリットのある産業と、国内市場を開けられては困る産業があり、それぞれが政治勢力のベースを構成している。アメリカのように「国際協調協定」を結ぶよりは大統領に「America First」を唱える人物をえらんだ国もある。

しかし総和として「自由貿易を掲げた方が今の世界では自国に有利だ」との漠たる計算があるからこそ、各国は難しい国内情勢 (社会、政治) があっても国内政治勢力のかなりの部分が自由貿易、協定拡大の方向に政策の舵を切っているだけだ。

しかしそこには常に不安要因がある。例えばこの一年「アメリカの全てのコーナーを回る」として行脚を続けていたフェースブックのザッカーバーグ氏 (CEO) は、一年間国を回った印象からアメリカが抱える問題として一つはオピオイド系鎮痛剤 (中毒症状が酷いとされるが、アメリカではこれが蔓延し、労働者を蝕んでいるとされる) を指摘したが、その他としては「the lost jobs and uncertainty caused by technology and free trade」を挙げた。

前者は日本では厳しく管理されており大きな社会問題ではないが、後者は言ってみればアメリカ全土で蔓延っている問題であって、その解決は容易ではない。ザッカーバーグは「アメリカ国内で多くの人を取り残されているのを見た」と述べている。アメリカで大手IT、SNS企業を率いる最高経営責任者の言葉なので、重い。

取り残された、またはそう思っている人々の勢力が、各国で政治勢力のベースを形成している。これはマーケットの観点からも考えておくべきだ。ただし先週読んだ記事で面白かったのは、アジア歴訪を続けているトランプ大統領を見ながら「彼はAmerica Firstを言うが、実はAmerica Aloneを演出しているように見える」と指摘したアメリカ新聞があった。

パリ協定に関しては今までシリアも離脱していた。しかし最近そのシリアが方針を変えたので、今は全くアメリカがパリ協定離脱の「Aloneの国」になってしまった。もっともアメリカの離脱は協定規約上では早くも2020年の11月4日。その前日がアメリカでは次の大統領を決める選挙だ。つまり日程的には、トランプの次に環境保護に心を砕く大統領が新しく誕生すれば、アメリカのパリ協定からの離脱は「一日としてなかった」ことになる可能性も。

Aloneになるにはアメリカは大きすぎ、そして強大すぎる。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|--|
| 11月13日（月曜日） | 10月国内企業物価指数
インド10月消費者物価指数
休場＝カナダ |
| 11月14日（火曜日） | 中国10月小売売上高
中国10月都市部固定資産投資
中国10月鉱工業生産
独7～9月期GDP
独11月ZEW景況感指数
米10月生産者物価 |
| 11月15日（水曜日） | 7～9月期GDP
10月首都圏新規マンション発売
10月訪日外国人客数
米10月消費者物価指数
米11月NY連銀製造業景気指数
米10月小売売上高
米9月企業在庫
休場＝ブラジル |
| 11月16日（木曜日） | 米9月対米証券投資
米10月輸出入物価 |

米 11 月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数

米 10 月鉱工業生産・設備稼働率

米 11 月 NAHB 住宅市場指数

インドネシア中銀政策金利発表

11月17日（金曜日）

米 10 月住宅着工件数

米 10 月建設許可件数

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。大分寒くなって秋らしくなってきました。一方で季節外れの激しい風と雨の襲来。暫く天候は不順なのでしょうね。私の回りで秋花粉も含めて鼻や喉の調子を崩している人が多い。私もその一人ですが、皆様も体調にお気を付けて。今年最後の大相撲が始まり、初日から3横綱のうち稀勢の里と日馬富士が負ける展開。大関は全員勝ったのに。思ったのは「(白鵬も若干弱ってきたし、今の大相撲では) 上下の差は昔ほどない」ということです。今場所も荒れそう。

- - - - -

野球はストーブリーグ。先週の最大の話題は大谷選手の MLB 挑戦が正式になったことでしょうか。5年間の日本プロ野球での時間は決して無駄ではなかったと思う。そもそも彼は最初からメジャーに行きたい、という意見の選手だった。しかし日本ハムの栗山監督から「二刀流に挑戦できるから」という説得が奏効してのハムでの5年間。去年の優勝で日本に残る理由がなくなった、ということでしょう。だから本人にそのつもりはなくても、今年は彼にとって残念な一年になってしまった。

来年、彼をどの球団が採るのか。常識的にはDHがないナショナルリーグなんだろうが、ヤンキースが獲得に強い希望を持っているとも。今年までのジラルディが辞めて、来年のヤンキースは久しぶりに新監督の下でワールドチャンピオンを狙いに来るとも思える。ヤンキースには日本人投手としてはマー君が居るし、そこに「打者、そして投手としての大谷」が加われば面白くなる。ジャッジもあれほど三振、三振の打者ではなくなるでしょう。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》